

「対話」を中心とした話し合いの手法を
取得することによる高校生の意識変化の検証

2021年3月31日

花巻市地域おこし研究所
研究員 氏名 幅下 智子

1.	研究概要	3
2.	研究背景	5
3.	先行研究・事例	6
4.	研究プロジェクト内容 ...	8
5.	実施内容	9
6.	実験から得たこと	20
7.	今後の展開	22

1. 研究概要

3

- 地域おこし研究所が高校生と大人をつなぎ対話する場をつくる ⇒ 未来のありかたラボ
- 対話のスキルを身に着けながら、地域の多様な人／仕事／働き方・暮らし方を知り、未来を考える

1-1 目的

地域との関わりが薄い高校生に、地域の大人と話す機会をつくることで、地域の魅力を知り、いずれ花巻で働きたい・暮らしたいと思ってもらいたい！

1-2 概要



1. 研究概要

- 成果 ⇒ 年齢や所属を超えてフラットに話せる場ができた
- 花巻市への効果 ⇒ 地域の大人と対話をする過程で花巻での働き方・暮らし方に触れることにより将来の選択肢が増え、将来的にUターン者の増加が期待される

1-3 成果

2020年7月～8月 「対話で未来を探すワークショップ」を開催

- 高校生33人・大人12人が参加
 - 高校生と大人が対話の手法を一緒に学び、様々なテーマで話し合いを行った
- 年齢や所属を超えてフラットに話せる場を実現
ニーズの把握／対話の効果確認
対面とオンラインどちらでもコミュニケーションをとれる若者の育成



1-4 花巻市への効果

- 花巻に対話の文化が広がる
 - 対話を用いて主体的に学ぶ若者が増える→地域の担い手の育成
 - 大人と対話をする過程で花巻での働き方・暮らし方に触れる
- 将来の選択肢が増え、Uターン者の増加が期待される

2. 研究背景

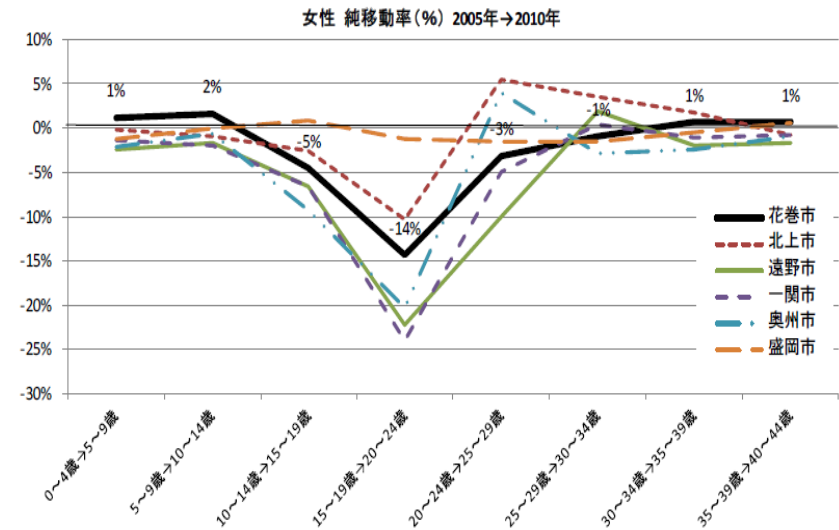
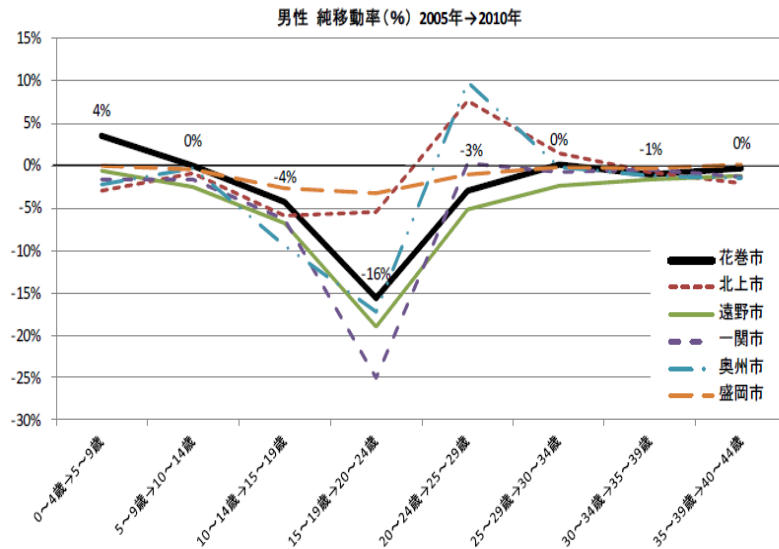
- 若者は社会や地域の大人との関わりが少ない
- 若者の人口流出

①若者を取り巻く環境

- ・島宇宙化※1する若者のコミュニティ ※1 同じ価値観を持ったものだけで場をつくること（宮台真司）
- ・学生は勉強や部活に忙しく、社会や地域の大人との関わりが少ない

②花巻の若者に関する人口移動（「花巻市人口ビジョン」平成27年度）

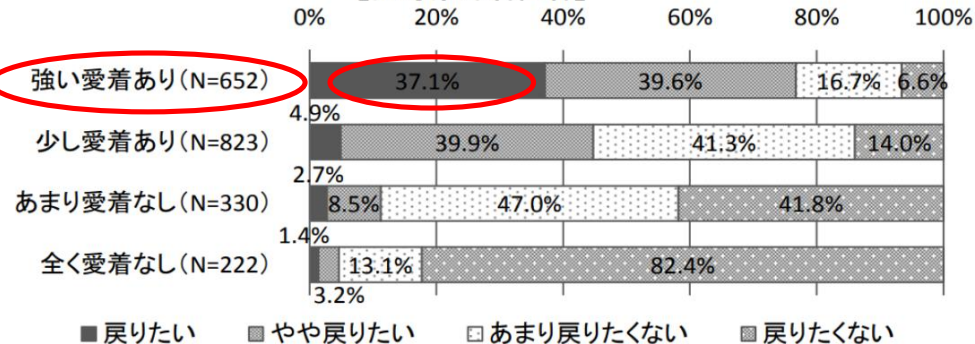
- ・10代後半～20代前半は、進学・就学時に転出増（主に首都圏や宮城県へ）
- ・近隣市では20代後半に転出より転入が上回るが、花巻市はマイナスのまま
- ・従来見られていた20代～30代にかけてのUターン者等も減少傾向



3. 先行研究・事例

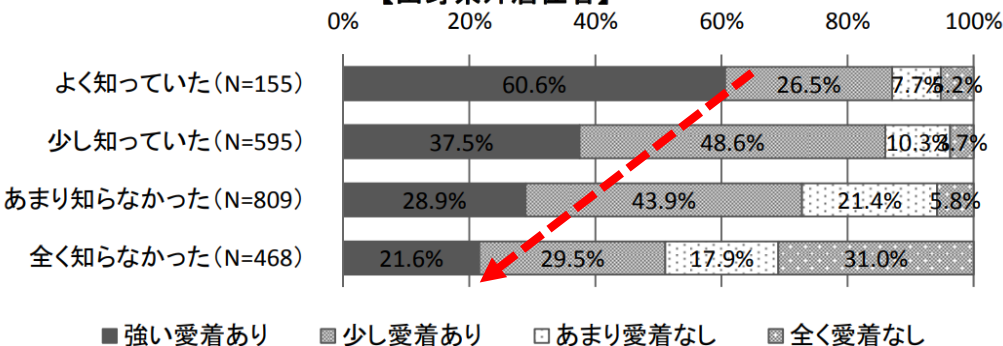
- 出身市町村へのUターン希望者と地域への愛着の関係
- 愛着と地元企業の認知程度との関係

図表3-13. 出身市町村へのUターン希望
—出身市町村への愛着有無別—
【出身県外居住者】



→ 地元への愛着を持っている人ほど
Uターンを希望している

図表3-14. 出身市町村への愛着
—高校時代までの地元企業の認知程度別—
【出身県外居住者】



→ 地元で働ける場を知っていることが
地域への愛着を高める要因の一つ

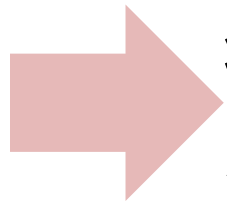
出典 労働政策研究・研修機構

『地方における雇用創出一人材還流の可能性を探る—』
2017年

3. 先行研究・事例

- 出身市町村へのUターン希望者と地域への愛着の関係
- 愛着と地元企業の認知程度の関係

働ける場を知っていることが愛着につながる



将来地元で働き暮らす
ポジティブなイメージを持てることが
大切ではないか？

若者が外に出てしまう、進路選択前に
地域やそこで暮らす大人を知ってほしい

4. 研究プロジェクト内容

- 地域の大人も学生も一緒に話せる場をつくる
- 同時に、学校では教えてくれない話し合いのスキルを身に着ける必要あり

学生

(メインターゲットは高校生)

学生時代に地域社会や大人との関わりが薄い

- ・ 地域のことを知らない、地域への期待がない
- ・ 将来像を具体的に描けない
 - ・ 受験や就職で大人と会話することへの不安

先生や家族とは違う大人との関わりが欲しい



対話スキル

地域の大人

予測のつかない社会

- ・ 今後の仕事や生活に対する不安
- ・ 今あるものを守っていく担い手の育成
 - ・ 新しい価値を生み出していく必要性

若い人達と一緒にアイデアを生み出したい

「こういう人と働きたい」「こういう暮らしをしてみたい」
モデルとなる大人と出会えば、いずれ花巻で働く・暮らす
選択が生まれ、Uターンにつながるのではないかな？

5. 実施内容

■実験的に小さな対話のワークショップを実施（2019.8.27）

<実験プログラム>

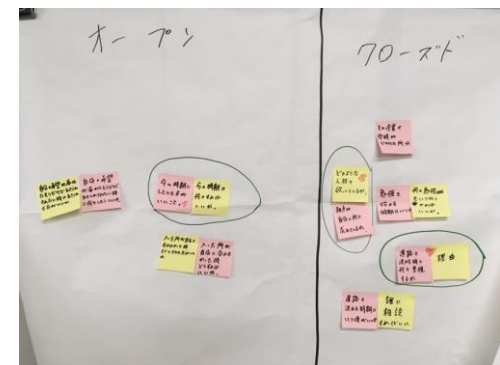
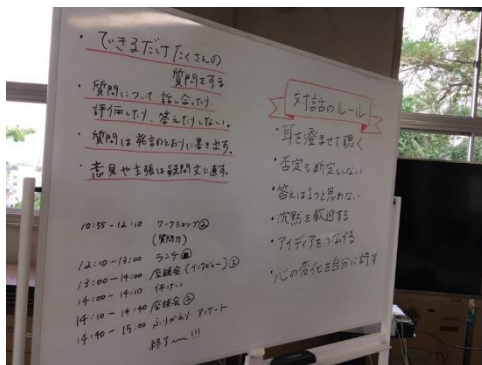
■日 時 2019年8月27日（火）9：00～15：00

■参加者 花北青雲高等学校 2学年 男子4名

■内 容 インターンシップの生徒と一緒に対話力や質問力の向上を図るワークショップや職員へのインタビュー

■インタビュー対象 長井副市長（内閣府の地方創生人材支援制度により本市に派遣。）
高橋定住推進課長補佐

■検証内容 質問力、対話力は向上するか
地元花巻で働く大人を知り、高校生の進路等の選択肢が広がる可能性があるかどうか
という大人と出会うとどんな反応が起きるのか
地元のとらえ方に変化はあるか（地域への期待度など）



5. 実施内容

- WSにより対話力、質問力が向上
- 大人との対話により地域への意識も変化

<事前・事後アンケート結果の比較 一部抜粋>

事前アンケート

Q 初対面の人と話すことは得意なほうですか？



「苦手」「どちらかといえば苦手」…75%

事後アンケート

Q 初対面の人と話すことへの抵抗感はなくなりましたか？

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」…100%

Q 他者とのコミュニケーションにおいて、自分の内面に変化はありましたか？

→聞きたいことをずっと内面におさえこんでしまっていたけど

少しだけ積極的に質問できるようになれた気がします

Q あなたにとって、地元や地方のイメージに変化はありましたか？

→地元や地方にはたくさんの可能性がある、と考えるようになった

Q 今日の体験を通して、チャレンジしてみたいことは何ですか？

→「考える」ということ。何に対しても一度じっくり考えてみたい

この実験的な取り組みにより「対話」の効果を確認

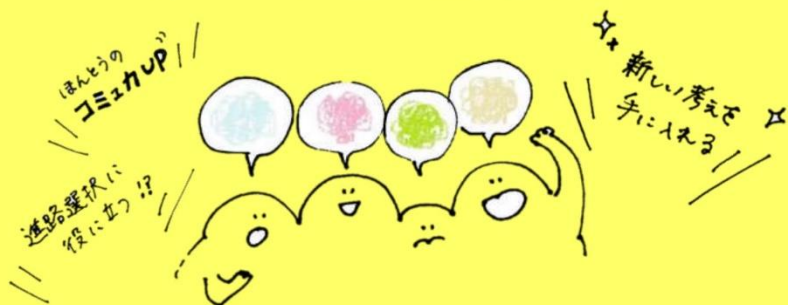
5. 実施内容

■2019年の実験を経て「対話」で未来を探すワークショップを開催（2020.7.18～28）

2019年の実験を経て、
参加者や内容をさらに充実させた
ワークショップを企画

じぶん×花巻 つながる未来ゼミ

「対話」で未来を探す ワークショップ



2020年7月18日（土）～全3回

そもそも「対話」とは??



お互いの立場を明らかにして、相手を論破する「討論 (debate)」と違い、「対話 (dialogue)」は相手を否定せず、意見の多様性を知り、新しい知見を得るための話し合いの手法です。物事の価値観や社会の常識がどんどん変化し、唯一の正解はなく、何が正しいのか答えは誰もわかりません。社会の課題を解決していくには、いろいろな人が集まって話しをして、新しいアイデアを生み出していくことが必要となります。これからの時代を生きていくために、「対話」のスキルはきっと皆さんの強みになるはずです。

「対話」のスキル、どうやって身につける??

大学の先生から
直接学べるチャンス!

ファシリテーターは、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授の山口寛さん。

山口さんは、福岡県福津市の津屋崎というところで実際に対話によるまちづくりを行っています。

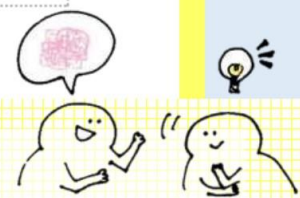
今回は山口さんと一緒に「対話」とは何なのか、どうしたら相手を理解し、自分の考えを伝えられるのか、みんなで考えます。

	内容	日時	場所
第1回	『対話ってなに?』	7月18日（土） 13:00～17:00	まなび学園 2階 第1中ホール
第2回	『対話スキルを身につけよう』 ※オンラインでの学び	7月21日（火） 18:30～20:30	小友ビル 4階 co-ba hanamaki
第3回	『対話スキルを活かそう』 ※オンラインでの学び	7月28日（火） 18:30～20:30	小友ビル 4階 co-ba hanamaki

※オンラインの環境は地域おこし研究所が用意します。

※感染症への対策を行い実施します。

実際に話し合いに参加してみよう!!



5. 実施内容

■地域の高校へ企画内容を説明し周知したところ、33名の生徒が参加

「対話」で未来を探すワークショップ

■日 時 2020年7月18日（土） 13：00～17：00
21日（火） 18：30～20：30
28日（火） 18：30～20：30

■場 所 なはんプラザ COMZホール他

■参加者 市内の高校生 33名
職員 12名

■内 容 山口覚さん（津屋崎ブランチ代表、慶應義塾大学政策・メディア研究科特任教授）をファシリテーターに迎え、「対話」という手法について学び、活かせるようになることを目的に、グループごとに様々なテーマで話し合いを体験
全3回のうち、1回目と2回目は対面、3回目はZoomを使いオンラインで開催した

■検証内容 対話のスキルを身に着けることによりコミュニケーションをとる上での意識の変化等

各校の先生方に直接説明・チラシを配布
→学校の理解も得られ、
積極的に生徒を送り出していただいた

結果33人もの生徒が参加！

5. 実施内容

■ワークショップの様子

■否定も断定もしない、無理に発言しなくてもOK ⇒ 安心して話せる場づくり



対話の心得（一部抜粋）

- ・話を**否定せず**、最後まで**耳を澄ます**
自分の言葉と相手の言葉に**境を作らない**
- ・**断定しない**、自分だけが正しいと思わない
答えは 100 個あるかもしれない
- ・**沈黙を歓迎**する
言葉にできないだけで、
新しい考えが生まれる前兆である

→安心して話せる場づくりがとても大事

話し合ったテーマ

「夏休みの宿題は必要か？」など

5. 実施内容

■ワークショップの様子

■オンラインによるWSも経験 ⇒ オンライン上での対話スキルを学ぶきっかけとなった



第1回 全員対面

第2回 参加者対面

ファシリテーターオンライン

第3回 全員オンライン

→段階的にオンラインでのWSにチャレンジ

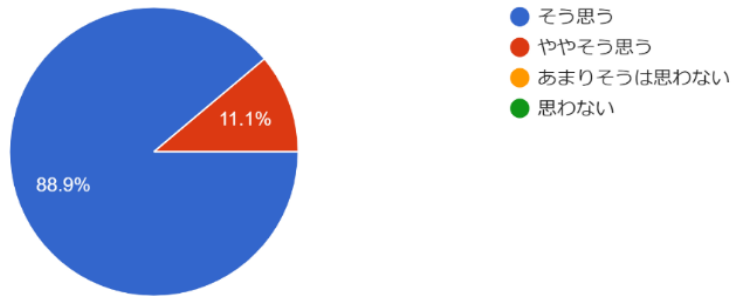


5. 実施内容

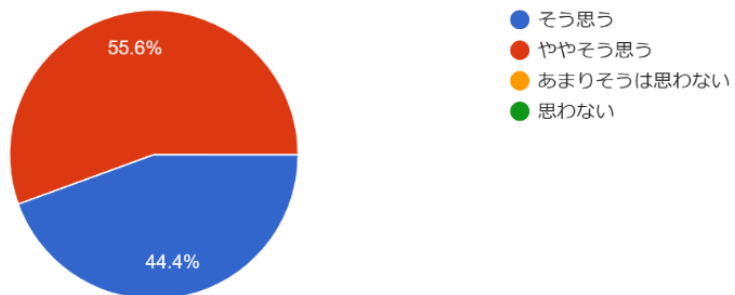
■ 事後アンケート結果より

参加以前に比べて聴くこと・話すことへの意識の変化が見られた

参加する前と比べて、他者のアイディアや意見に耳を傾けるようになった。



参加する前と比べて積極的にアイディアや意見を伝えるようになった。

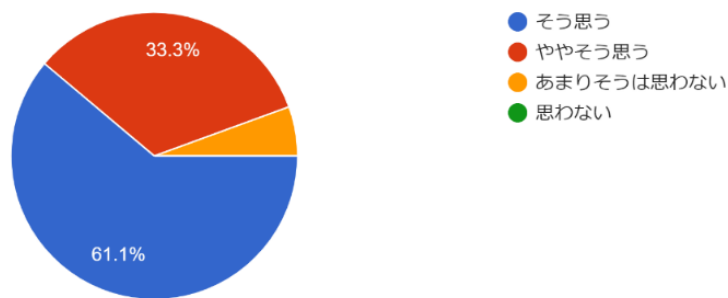


5. 実施内容

■事後アンケートより

所属や年齢を超えてもっと話をしたいという意欲も高まった

参加する前と比べて、自分の所属とは異なる、他学年や他校生ともっと話してみたいと思った。



今後、「対話」のワークショップを開催する場合、どのような人と話してみたいですか（エリア）



5. 実施内容

■事後アンケート自由記述より

学校では教わらない「対話」の手法は高校生にとって新しい気づきにつながっている
将来自分が社会に出る事への関心または不安から大人と話をしてみたいというニーズがある

<参加した生徒の声①>

- ・ 討論では、その多様な考え方が潰されてしまうこともあり、もったいない部分がある。対話を行うことで、のびのびと自分の意見を言えて、他の人の意見を聞くことも出来て、新たな考え方の吸収にもつながる。
- ・ 自分の意見を伝えるとき必ず話さなければいけないという重みがなく話したいときに話せた。
- ・ 対話を活かして、年齢や地位など関係なしに自由に意見を述べられるような環境を作れる大人になりたいと私も思いました。とても貴重な体験でした。ありがとうございました。
- ・ いろんな人の考えを聞いて、否定も肯定もせず新しい考え方として自分の中に取り入れるというのをやってみると、いい意味で自分の考えがコロコロ変わって、非常に面白い体験でした。もっと人と話したくなりました。

5. 実施内容

■事後アンケート自由記述より

学校では教わらない「対話」の手法は高校生にとって新しい気づきにつながっている
将来自分が社会に出る事への関心または不安から大人と話をしてみたいというニーズがある

<参加した生徒の声②>

- ・新しい話し方の違いを理解できてよかったです。
もっと色々な方と話をし交流してみたいと思います。
- ・人とあまり話す方ではなかったが、今回の件で話せるようになりました。
- ・想像していたより面白かった。
- ・今までも知らない人と話すのは苦手ではなかったですが、今まで以上に話すことが好きになりましたし、たくさんの人と話したいと感じました。
- ・対話をする事で、自分の意見を伝えることができて楽しかったです。
- ・参加してみて、とても影響を受けました。そして、良い刺激になりました。
- ・「沈黙を歓迎する」が印象に残りました！
- ・ワークショップに参加して、「沈黙」を一回目の時よりも怖がるのが無くなりました。これからは、もう少し他人の意見に耳を傾けて聞けるようにしていきたいです。ありがとうございました。

5. 実施内容

■職員アンケート自由記述より

職員にとっても重要な気づきがたくさんあった
大人にとっても対話を学ぶ場が必要

<職員アンケートより>

- ・褒めることは評価していることになってしまう。発言することは「義務ではなく権利」。自分の中の概念が覆された。
- ・沈黙を受け入れたら、ほかの人が話し始めた。沈黙は大事！！
- ・対話の中で大人がしがちなこと（褒めて評価する・質問攻めにする・仕切ろうとする等）をしないようにする等、意識することで、話に素直に耳を傾け共感したり、自分の意見を発言したりした。今回の経験を生かして、ファシリテーターとしての役割を考え、職場（保育園）での会議でも参考にして実践していきたいと思いました。
- ・高校生の様子を見ていると沈黙しているときに何も考えていないわけではなく、メモを見たりして思案している様子が分かったので、今後このような機会があれば様子を伺いながら話を振るようにしていきたい。

6. 実験から得たこと

- 対話を学ぶことの有効性
- 対話の場に対するニーズ
- 大人こそ対話のスキルを身に着ける必要あり

実験を終えての気づき①

- ・コミュニケーションの取り方について、意識の変化があった
→「対話」を学ぶことの有効性
- ・もっといろいろな人と話してみたいという意欲が伺えた
→「対話の場」ニーズがある
- ・対話を理解しているつもり、できてるつもり
実際、対等に話をすることは難しい（特に大人）

→学生だけが一方的に学ぶのではなく、
大人も一緒に学びあうことが必要



6. 実験から得たこと

- 対面とオンラインをハイブリットで活用できる若者の育成
- 対面を用いて主体的に学ぶ若者が増えることは花巻の魅力向上につながる

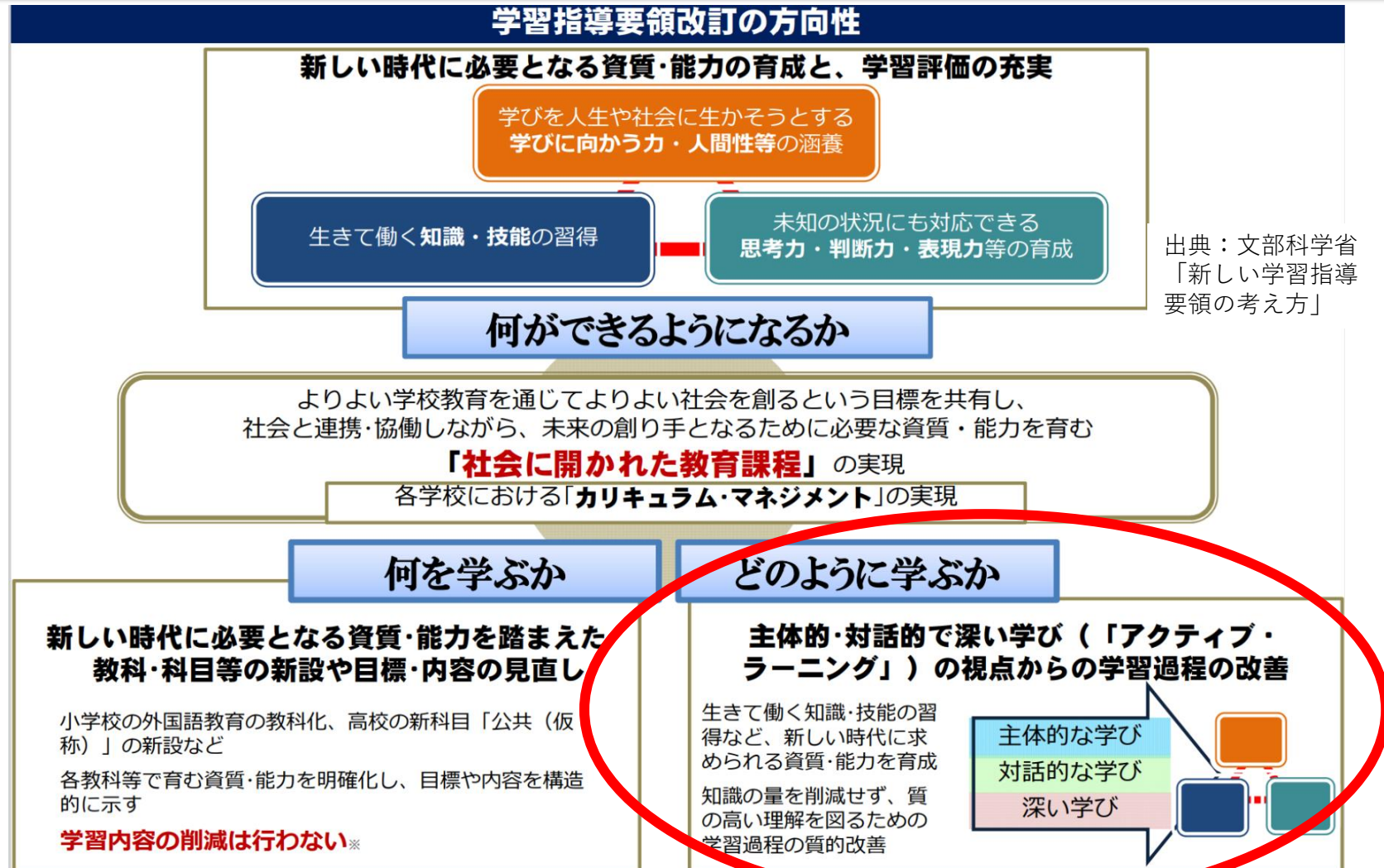
実験を終えての気づき②

- ・首都圏中心にオンラインでの授業や会議が増加
一方、地方では対面での授業が会議が多くオンラインツールに不慣れな人も
→対面とオンライン、それぞれの利点を理解しながらも積極的に
オンラインツールを活用できる学生を育てる必要性
- ・対話によって新しい考え方や価値観が生まれる
→花巻で子どもたちや若者が**対話のスキルを身に着けること、**
主体的に学んでいくことは今後の花巻の担い手の育成の面でも重要

地域の大人との対話では、その過程で
花巻での働き方・暮らし方に触れることができる

7. 今後の展開（現在の社会的背景）

- 2020年度小学校から順次学習指導要領が変わる
- 「主体的で対話的な深い学び」を重視、社会にひらかれた教育課程の実現へ



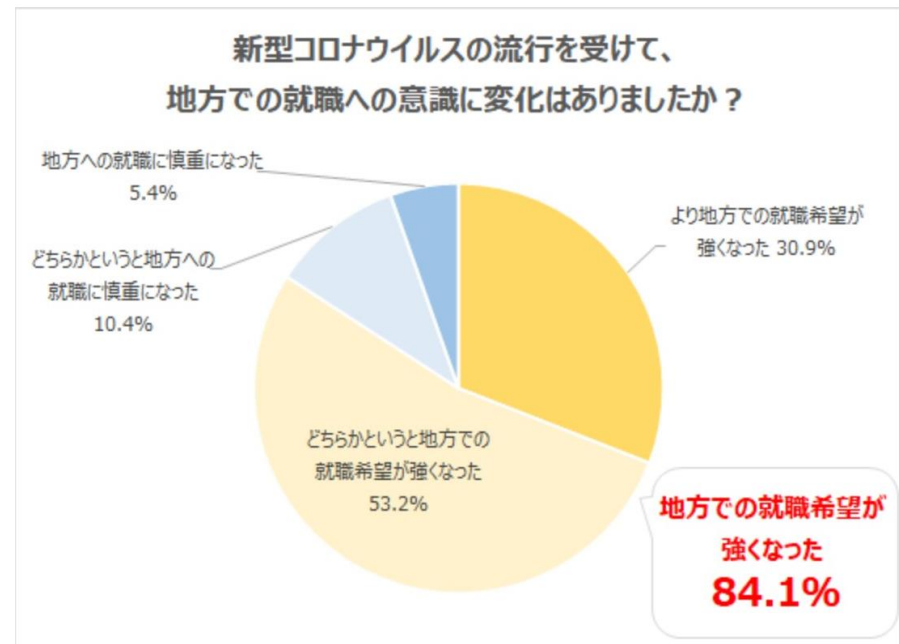
出典：文部科学省
「新しい学習指導
要領の考え方」

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

7. 今後の展開（現在の社会的背景）

- 「対話の場」づくりは座学以外に重点を置きはじめた学校の受け皿になりえる
- 新型コロナウイルスの影響もあり、地方への注目は高まる？

- ・学校の外で地域の大人と関わる機会は
学習指導要領が変わった**学校側でも求めているチャンス**
- ・学生自身、学校だけの学習に不安を抱えており、
進学・就職のため学校外での活動の場を探している
- ・また、新型コロナウイルスの流行により地方で就職を希望する学生が増加している
→「**地方**」でどのように働き、
暮らしていけるかアピールして
いくチャンスではないか



2022年3月卒業（修了）予定の大学生・大学院生を対象に
就職活動に関するインターネットアンケートを実施
(株)学情 2020.12 発表

7. 今後の展開

- 現在の社会的背景も捉えながら小さな実験を継続させる
- やらされ感のない学びの場をつくっていく

2018

- ・研究テーマ決定
- ・背景や先行事例等の調査

2019

- ・2019.8 実験プログラム実施
- ・2019.11 津屋崎視察

2020

- ・2020.7 対話のWS実施
- ・研究結果の検証
- ・事業展開検討

2021

- ・対話を学びながら学生と地域の大人が出会う場づくりを継続
→生涯学習課ではこれまで培っているネットワークを活用し
学生と大人をつないでいく支援、場づくりが可能
- ・メインターゲットは高校生だが、中学生や大学生等に対象を広げる
- ・やらされ感なく、自ら参加したくなるような場づくり
- ・まちづくりや地域づくり活動に展開していく

